

授業科目 老年保健看護学演習

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	看護
木部 美知子、梨本 光枝 近藤 浩子、恩地 裕美子		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【概要・一般目標：GIO】 高齢者の暮らしの多様性、および老年医療・保健・福祉・介護制度など、高齢者・家族の社会生活とその看護に関する基礎知識を学ぶ。また高齢者の健康問題が、加齢による心身機能の変化、生活環境、生活習慣など多様な因子に影響を受け、個別的で複雑な構造を持っていることを理解する。さらに高齢者に生じやすい健康問題を捉え、高齢者に個別的看護を提供するためのアセスメント能力を養い、高齢者の自立生活の維持・拡大に焦点をあてた看護実践のプロセスを学ぶ。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 健康問題がある高齢者とその家族に対する看護を理解する。 2. 高齢者を取り巻く家族その他の人々の様々な支援関係や活動・役割が理解できる。 3. 高齢者のQOLに向けた看護の役割を理解する。 4. 高齢者・家族の暮らしを支える社会保障制度・施策のしくみと課題を理解する。 5. 社会資源を有効に活用できる支援と、地域のケアシステムにおける看護の役割を理解する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	PBL 事例1：認知障害のある80歳女性 事例2：脳梗塞後遺症のある78歳男性 事例3：大腿骨頸部骨折の68歳女性			1～4	PBLチュートリアル
2	PBL				
3	PBL				
4	PBL				
5	PBL				
6	PBL				
7	PBL				
	PBLの進め方 1. グループメンバー間で事例の全体像を整理し看護問題・ニーズを明確化する。 各メンバーが学習する内容・項目を共有する。 2. 看護問題解決に必要な看護援助を検討する。 3. グループメンバー間で事例の援助計画を立案し発表する。				
8	高齢者の健康維持・介護予防を目的とした看護			1～3	講義
9	日常生活活動（ADL）評価の意義と方法 高齢者のADL援助技術：起居動作・移乗・移動動作			1～3	講義・演習
10	高齢者のADL障害と援助技術：更衣・清潔・入浴			1～3	演習
11	高齢者の全体像、健康状態をとらえるアセスメントのための看護技術			1～3	講義・演習
12	高齢者の摂食・嚥下障害のアセスメントと技術			1～3	演習
13	高齢者の排泄障害のアセスメントと援助			1～3	演習
14	高齢者の廃用性症候群（褥瘡・関節拘縮など）予防のためのアセスメントと援助			1～3	演習
15	まとめ			1～3	演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		老年看護技術—アセスメントのポイントとその根拠—	奥野 茂代、 大西 和子 編集	ヌーベル ヒロカワ	2,100円＋税
参考書		老年看護学 ―概論と看護の実践―	奥野 茂代、 大西 和子 編集	ヌーベル ヒロカワ	3,900円＋税
その他の資料		高齢者の健康と障害	堀内 ふき 他	メディカ出版	3,400円＋税
		老年看護の実践	大淵 律子	メディカ出版	3,400円＋税
【評価方法】 参加態度20% 学習内容50% 筆記試験30%		【履修上の留意点】 【評価方法】 参加態度20% 学習内容50% 筆記試験30%			